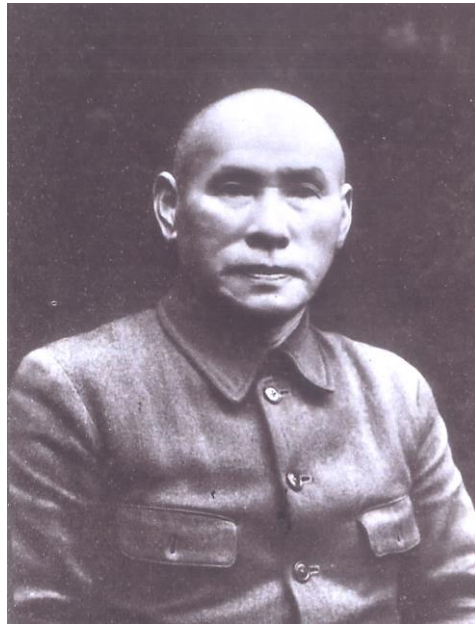


高鍋町の 先賢と文化財



柿原 政一郎

高鍋町名誉町民 政治家
1883年生~1962年没

明治16年（1883）、高鍋町道具小路に父柿原正一、母キミの一人息子として生まれました。
政一郎は、政治家であるとともに実業家であり、社会事業家でもありました。その生涯は変化にとんで多角的。枠を超えてはびろく活躍し、多方面に功績を残しました。
師と仰いだ石井十次は親戚にあたり、少年時より身近に接する機会も多く、政一郎の人間形成に大きな影響を与えています。
政一郎が病を得て大学を中退した後、十次の命により倉敷紡績会社に入社し、大原孫三郎社長の秘書を務めることになりました。孫三郎は十次の心友であり支援者でした。政一郎はこの二人に師事し、手足となり時にはブレンとして働き、労働問題、社会問題を実地に研究。その経験が柿原政一郎の人生を築く礎となりました。
無私の精神に貫かれた人柄で、質素に徹し無類の儉約家。宮崎市長時代は「名誉市長」の名のもとと俸給を受けなかったこと、高鍋町長時代は図書館の寄贈など、数々のエピソードが残っています。

柿原政一郎 | Seiichiro Kakibaru

修学時代

政一郎は生来体が弱かった反面、知力の発達には素晴らしく、四歳のころには簡単な読み書きや算数をよくこなし、神童のうわさが高かったといえます。明治21年4月（1888）、数え年6歳（満4年10か月）の未就学年令ながら、特別に大阪市の堂島小学校に繰り上げ入学させてもらったところから政一郎の修学は始まります。小学校教育は大阪府堺市・宮崎県宮崎町・宮崎県都城町・宮崎県高鍋町と転校してまわりましたが、どこでも学業優秀で通じたといえます。

明治28年（1895）、藩校「明倫堂」の学風を組むあこがれの公立高鍋学校に進学。在学中は、体力錬成のために新富町の湯風呂の開拓地から高鍋町まで往復14キロの山道を歩いて通学。体格はよくなり、病氣一つせず両親を気強くさせたといえます。3年の課程を経て、宮崎市の県立宮崎中学4学年に受験編入。ここで2年間勉学し、後に岡山の第六高等学校（現在の岡山大学）の工科を受験するも失敗。十次を頼り岡山孤児院内に泊まり込んで受験勉強し、今度は哲学科を受験して合格。六高時代、就学の暇を見ては孤児院の仕事に奉仕するのを楽しみとしていたといえます。院内に住み込んで孤児たちと寝食を共にしたほどで、社会福祉への関心は学生時代から深まり、後年社会事業に手を染める礎をつくりました。六高で3年間学んだのち東京帝国大学哲学科（現在の東京大学）に進みますが体が弱りがちとなり病を得て三学年の一学期限りで中退します。

社会への幕開け

健康が回復した後、十次の命をうけて倉敷紡績会社に入社したのは24歳の時（明治40年・1907）でした。明治42年（1909）、十次の大阪総合社会事業の開設に参画。大正3年（1914）以降、中国民報社（現在の山陽新聞社）入社、後に中国民報社、四国民報社（現在の四国新聞社）の両社長となり、次第に活躍舞台が広まり、37歳の若さで衆議院議員に当選（大正9年・1920）。郷土宮崎県発展のため、県外送電反対運動および県営電気創業に貢献します。

大正13年から昭和7年（1924~1932）ごろまでは、中国地方で活躍し、新聞報道、広島市宇品臨海広島土地株式会社経営、喜清会学園を創設しました。昭和10年（1935）に宮崎市長に就任以降、いよいよ郷土発展に尽力しました。

政治の世界へ

37歳の若さで衆議院議員に当選。（大正9年・1920）その後52歳から55歳までの間に（昭和10・13年・1935・1938）宮崎市名誉市長、宮崎県会議員、高鍋町長に就任。37歳で中央政界へ進出してから地方の政治に着手したのは「地方から中央へ」の政治家コースとは逆の歩みでしたが、高鍋町長に就任した年の10月、高鍋町・上江村を合併して多年にわたる住民の念願を実現した後、昭和14年（1939）町長を辞職し、再び県会議員に就任し、県会議長も務めました。67歳の時（昭和25年・1950）再び高鍋町長に就任。この後2期の在任期間中、産業・文化・福祉の発展に尽力、貢献しました。主な功績については次の通りです。

産業面では、企業誘致に力をいれ、無水アルコール工場（現・宝酒造株式会社）、南九州化学工業株式会社の創業（昭和27年・1952）のほか、九州輸出製茶株式会社を創業、養鶏を奨励し高鍋養鶏組合長となり、地域産業の振興に尽力した。**社会福祉面**では、県内初の老人ホームである「高鍋町養老院」（後の『養護老人ホーム・寿昌園／現在は閉園』）の設置（昭和29年・1954）など。また石井十次の死後、その志を継いで茶臼原孤児院の後見人を務めた。石井記念友愛社、財団法人正幸会を創設、福祉と文化発展に貢献した。

文化教育面では、町立高鍋図書館の創設（昭和30年・1955）。同年、高鍋高校の甲子園初出場（本県初）を記念した町営野球場の完成などが挙げられます。



現在の明倫堂書庫
（奥は穀堂書庫）

政一郎は72歳の高齢の身で熱心に勉強し「司書」の資格を得たほど高鍋図書館の経営には特別に情熱を打ち込んでいました。町長就任後、図書館の建設を企画し工事に着手した際、高鍋農業学校構内に保存されていた昔の明倫堂の書庫を解体移築し古文書類を収蔵して「明倫堂書庫」と名付け、工事完了と同時に町に寄贈。町教育委員会の発令で町長在任のまま初代図書館長となりました。

柿原政一郎 | Seiichiro Kakibaru



柿原政一郎記念

高鍋図書館



晴天時の芝生の庭



柿原政一郎翁胸像

昭和38年（1963）政一郎の功績をたたえ、柿原政一郎翁顕彰会より、町立高鍋図書館に「柿原政一郎翁像」が建立されました。

近年の高鍋図書館は、令和4年に外壁・トイレの改修、玄関のバリアフリー化などの施設内の改修工事が行われ、また、芝生の庭とウッドデッキが新設されました。より利用しやすく親しみやすい図書館を目指し、現在も継続して施設の改修工事が行われています。（令和6年3月完成予定）

開館日

- ・ 火曜日・金曜日
午前9時～午後6時
- ・ 土曜日・日曜日
午前9時～午後5時

休館日

- ・ 毎週月曜日
- ・ （祝日の場合は翌平日）
- ・ 毎月1日の図書整理日
- ・ （土曜日・日曜日の場合は次の火曜日）
- ・ 12月28日～1月4日

お問合せ先

柿原政一郎記念高鍋図書館
電話 0983・21・1152